



# 大竹さんの大玉トマト



「人間が育てているんじゃない、野菜は自分で育っているんだ」というのが大竹さんの考えです



必要な肥料を自分から根っこを伸ばして取りに来るように、わざと根元から離れた所に肥料を入れます



ハチや納豆菌、そしてお天道様の力を借りて、今年も元気に美味しく育っています

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

## ★自分の力でしっかり育つ大玉トマト

夏野菜の定番、大竹さんの大玉トマトの季節がやってきました。大竹さんは大玉トマトを作って20年以上。その美味しさに大勢のファンがいます。

大竹さんは「野菜は自分で育つ。人間が育てているなんて考えは、100年早いよ」という考えの下、自然の力を借りながら育てています。例えば、ハウスの中にはマルハナバチという蜂が飛んでいます。トマトは蜜がほとんど無く、蜜よりも花粉を集めるマルハナバチとの相性が良いので、彼女らに受粉をしてもらいます。

また、苗を植える畑を作る時に有機石灰やリン酸は入れても元肥は入れません。苗を定植した後に植えた場所からわざと30cmほど離れた所に有機配合肥料を入れるのです。「トマトが自分で考えて必要な量を吸ってもらった方が良く出来るんだよ。トマトは自分たちで育てているんだ。人間がやることなんて芽かきと誘引をするぐらいだよ」

また、水も最低限しかあげません。「水をあげれば玉も大きくなって収量も上がるけど、木も大きくなって病気にもなりやすいし、玉も割れたりする。だから欲をかかない方が良いんだよ」

更に、トマトは葉カビなどの病気がかかりやすいのですが、大竹さんは葉っぱの様子を見ながら大体1週間～10日に1回ほど納豆菌を撒くことで、病気が出るのを防いでいます。トマトの持つ力を最大限に引き出すよう環境を整え、手間をかけて育てられた大竹さんのトマト。今年もきっと沢山の人がその美味しさに驚くのでしょうかね。

## 【産地情報】

◎さつま芋（千葉紅）は終了となります。また秋の新芋を楽しみにして下さい。